

平成29年度 長野市地域包括支援センター運営協議会 報告書

日 時	平成29年 7月28日 (金) 午後 1時30分 ～ 3時30分
会 場	長野市役所第一庁舎 4階 141会議室
出席者	委員13人 (欠席 會津委員、森本委員) 事務局12人 地域包括支援センター代表 2人
次 第	<p>1 開 会 介護保険課 戸谷補佐</p> <p>2 あいさつ 竹内保健福祉部長</p> <p>3 協議事項</p> <p>(1) 平成28年度事業報告・収支決算について 説明：介護保険課 戸谷補佐 (資料1、2、3) 中部包括支援センター 池田補佐 (資料1の3)</p> <p>(2) 平成28年度事業内容の評価について 説明：中部包括支援センター 池田所長 (資料4)</p> <p>(3) 平成29年度事業計画・収支予算について 説明：介護保険課 戸谷補佐 (資料3、5)</p> <p>(4) 直営センター運営について 説明：南部地域包括支援センター 西澤所長 (資料6)</p> <p>(5) 介護予防支援業務の指定居宅介護支援事業所への委託について 説明：中部地域包括支援センター 羽賀係長 (資料7)</p> <p>(6) その他</p> <p>5 閉 会 介護保険課 戸谷補佐</p>
質 疑 応 答 要 旨	
委 員	(1) 平成28年度事業報告・収支決算について 資料1の9ページ目。介護保険要支援認定者に対するケアマネジメントということで一番右の部分に総合事業サービス利用者数とあるが、具体的にどんなサービスが受けられるのか教えてほしい。
事 務 局	総合事業のサービスというのは、要支援者1、2またはそれに相当する方々に訪問型、通所型の2つのサービスを提供するもの。制度改正前と同じサービス、制度改正前のサービスと同じものを内容を簡単にして人員配置基準を緩和したサービス、それから住民主体サービスという主には3つのサービスがある。新しくできた基準緩和サービスは登録した事業者も少なく、まだ慣れていない面もあり、ほぼ今までと同様のサービスの利用が圧倒的に多い。
会 長	介護予防ケアマネジメント費の収入が記載されているのは博愛の園だけだが、ほかの包括はまだ実施していないということで良いか。
事 務 局	昨年度10月に制度改正したため、9月末までは改正前の予防給付と総合事業のサー

	<p>ビスが混在しており、計画の作成も予防給付による作成と総合事業による作成が混在しており、なかなかわけづらい面がある。予防支援計画作成収入の中に含んでいることが多い。</p>
<p>会 長</p>	<p>収入から支出を引いたところ最後に残った金額、Fがマイナスになっているのは先ほどの説明の中でそれでも法人でみていただけるということはわかったが、逆にC、Mがなぜこんなに多いのか教えてほしい。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>資料1の2ページ目。CとMについては両方とも社会福祉協議会が運営している。平成28年度から各センターに4人配置してもらえような委託料に増額したところだが、社協はそれ以前から配置人員を増やしていた。委託料が増えたことで1名分収入増えているということになる。来年度以降支出増えていくと思われる。大きな黒字にはなっていないが、平成28年度についてはそのような理由がある。</p>
	<p>(2) 平成28年度事業内容の評価について</p> <p>質疑なし</p>
	<p>(3) 平成29年度事業計画・収支予算について</p>
<p>会 長</p>	<p>資料5。高齢者虐待110件。このうち認定されたのが50件ということでこれを見つけて認定して対応していく。時間といろいろなところの協力が必要な仕事。発見の段階では民生委員と地区の方々の協力が必要になる。そういった意味でも高齢者の実態把握や入退院を繰り返す人については病院のある地域包括から自宅にいる方へフォローアップしている。また地域の中で温度差がある。特に住民自治協議会の中には積極的なところとまだそんなに積極的でないところがあると聞いている。質問として、住民自治協議会との協力関係はいかがか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>生活支援体制整備ということで32地区全ての住民自治協議会を回り、お願いをしているところ。6月から始めて、すべてを回りきれているわけではないが、23地区ほど回ったところ。その中で2025年の高齢者がピークを迎える年に向かって自ら何かを始めなければいけないという意識はどの地区にもある。ただ具体的に何をして良いかわからないと。このあたりは念入りに意見交換を重ねながら活動づくりをすすめる必要がある。活動づくりそのものに関しては意欲のある意見をいただいている。</p>
<p>委 員</p>	<p>鬼無里は中部が担当しているが、住民自治協議会との関連を包括支援センターのおかげで大変うまくやっていただいた。声がけうまくいったおかげで毎月ネットワーク会議行っているが、必ず包括の方がきて、詐欺等の情報が入るとすぐ対応してくれる。住民自治協議会だけだとどうして良いかわからないが事例やケースを持っているから20</p>

	<p>団体ほどネットワーク会議に入っていたいただいて、駐在や郵便局や、鬼無里は介護予防の関係で鬼無里の湯など、事業者も入ってくれるよう導いてくださったのは包括のお声かけから始まったのかなど。皆さん積極的に出てきているし、幅広い人が入ってくるいろいろな意見が出てきて面白いと思う。住民自治協議会はやりたいと思っても不安かと思うから、そのように包括のサポートをお願いしたい。大変感謝している。</p> <p>(4) 直営センター運営について</p> <p>会長 南部にいる人間としては残してほしい。人口割についてだが、資料1 高齢者人口の比率南部地域全体みたときに約4万人近くいる。要支援1から要介護5までの方で南部にどれだけいるのかというと、約2万1千人のうちの8千人、やはりこれも40パーセントの人たちが生活をしている。基幹型であっても2ヶ所にあるから意味があると思っている。そこにあるから行けるということがある。問題がどんどん複雑化した困難事例増えてきている。1回行くと時間がとられる。包括の職員と同行訪問も多々出てくると思う。他の地域包括の支えという意味でも南部包括は残していただきたい。ただ中部や地方事務所の仕事もあるときいているため、そこでなされている仕事の精査ややり方の検討はたしかに必要かと思う。</p> <p>事務局 検討する中でも模索してきたが市民の皆さんの利便性や南側の機能が低下しないようにというところは配慮して進めていきたい。</p> <p>委員 直営というのは北部と中部と南部があって、北部がなくなった。それで今回は南部をなくすという話。直営があった方がよりベターだなと思うが、南部があるなら北部ももう一度作り直していくべきで、北部がないなら南部も切って中部でしっかりやっていく。委託された包括がしっかりやっていけば良いのかなど。</p> <p>会長 新しくできた包括をサポートしていくという役割もあると思う。新しい人が入ってその人が育つというのはかなり大変なこと。最近職員の定着率もよくないと聞いている。担当者が変わってしまうというのは住民にとってどうなのか。安定した経営の出来ている包括になら安心して相談できるが、きちんと把握ができるのかということ。新人の職員が多いところや定着の悪いところは基幹型の包括にサポートしていただきたい。</p> <p>委員 南部地区は新しい包括も多い場所なので今すぐやめられては困る。円滑に運営出来る状況が生まれるまで残したほうが良いのでは。中部でまとめていきたいという考えがあるならそれをいつにするか、時期をもう少し延ばして長野市全体が円滑に運営できるようになるまで残したらどうか。</p> <p>委員 たとえば基幹型というのは必ずエリアをもたなければいけないのか。担当地区を持たずに基幹型としての機能だけを持つというのはできないのか。</p>
--	--

事務局 委員	<p>当市ではないが担当地区を持たない基幹型包括も他市にはある。</p> <p>それであれば、その機能をしっかり残せば大丈夫なのかなとわたしは思う。</p>
委員	<p>(5) 介護予防支援業務の指定居宅介護支援事業所への委託について</p> <p>質疑なし 承認</p> <p>(6) その他</p> <p>包括支援センターが機能していくことは大事だが、高齢化社会になぜなっていくのか根本的なことを考えなくてはいけない。寿命が延びていく反面少子化で親をみる若い人たちがいなくなってしまう。少子化対策を進めていかなくては。もうひとつは子供が親をみるということを忘れてしまっている。社会に任せておくという感じになってきている。教育の段階でもっと高齢者を大切にするよう国が県が市が教育していくという、根本的なことをやっていただきたい。</p>
事務局	<p>今後のスケジュールについて。例年3回ほど開催させていただいている。次回は10月頃を予定している。来年度からの事業計画について今後の方針をお聞きしたいと思う。</p>
会長	<p>以上で議事をすべて終了する。</p>